

新聞の中にある国際的なニュースを探す生徒たち
8日、南越前町南条中



伝わる記事 見出しとは

南越前 南条中生知識深め

南越前町南条中で8日、読んだ人に伝わる記事の書き方や見出しの付け方を学ぶ出前授業が開かれた。1年生51人が参加し、今後取り組む新聞



作りに向け知識を深めた。生徒は5月中旬に訪れた愛知県犬山市の明治村での校外学習を、総合的な学習の時間を使って個人新聞にまとめる予定。福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターを講師に招いた。徳島さんは、宮城県東

部の地域紙「石巻日日新聞」が2011年の東日本大震災直後に発行した手書きの新聞などを例に、「新聞の役割は伝えること」と説明。記事の基本要素の「5W1H」(いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように)や見出し・リード文の役割などを教えた。

生徒は班ごとに意見を出し合いながら、福井新聞の記事から5W1Hの要素を探したり、指を折りながらオリジナルの見出しを付けたりした。

牧野華奈さん(13)は「記事に5W1Hを入れれば、分かりやすく正確に伝わるということが印象に残った。教わったことを新聞作りに生かしたい」と話していた。

(大谷純平)